



私たち、歴史・文化C班は、行田市がギネスに挑戦している田圃アートのできるまでを、追ってみました。



田圃アートとは、農地に古代の稲や現代の稲を使って絵や文字を描くことです。広い意味でミステリーサークルも田圃アートの範疇に入れる人もいます。ただ、決定的に違うのは、田圃アートは「生産」であり、ミステリーサークルは紐と板を使って麦を倒す「破壊」であるということです。農耕民族と、狩猟民族の違いがこういったところに出ていると考えるのは、考えすぎでしょうか。



田圃アートは、1993年青森県南津軽郡田舎館村が村興しの一つとして、田舎館村役場裏手の田圃で始められました。当時は、稲文字と呼ばれ、紫稲、黄稲、つがるロマンと色の違う、稲の苗を使い、文字と岩木山を描いたのが始まりです。



県内では2006年に小鹿野町、加須市大越で始まり、7か所に広がりました。規模は200坪から8500坪くらいまであります。

主催する団体は幼稚園や小学校、グループなどの有志の会、一部観光協会や行政が支援するなど、様々です。

行政がきちんと関わっていない場合は、維持継続が難しいようで、今年(2015)は行田市をはじめ、4か所での実施となっています。

それでは行田市の取り組みの様子を見てみましょう。

行田市の取り組み (年表)

「田んぼアート米づくり体験事業」として2008年度から実施。田んぼアートづくりでの農業体験を通して、日本人の主食である「米」を身近に感じることができ、参加者間の交流を図りながら、農業や環境への理解を深めることを目的としています。

年度	面積	田圃	稲の種類	参加者	備考
2008	200.0㎡	行田バス	4種類	市民会連合会+事務員	
2009	600.0㎡	古代バス	6種類	187人	市制60周年事業 一般参加者募集開始
2010	1300.0㎡	忍城とのぼり橋	3種類	639人	
2011	2800.0㎡	のぼり橋、石田三成、東日本大震災復興メッセージのぼり橋、石田三成、忍城のぼり橋、GYOD Aの文字橋	3種類	968人	田んぼアート米づくり体験事業
2012	*	*	5種類	948人	
2013	*	古代運の橋	7種類	497人	一般参加者中止 ギネス挑戦
2014	*	古の行田	8種類	560人	市制65周年事業 一般参加者中止、ギネス挑戦断念

行田市では「田んぼアート米づくり体験事業」として、古代運会館の東側の水田を活用して、2008年度から始めました。

主催は市の環境課や農政課も関わる、「田んぼアート米づくり体験事業推進協議会」となっています。その目的は、田んぼアートづくりでの農業体験を通して、参加者間の交流を図ること、日本人の主食である「米」を身近に感じてもらい、農業や環境への理解を深めること、田んぼアートを通して、行田市を内外にアピールし、観光を盛り上げることにあります。昨年度、2013年からはギネス認定への挑戦も始めましたが、天候不順や管理の難しさもあり、申請を辞退するなど、挑戦は引き続き課題となっています。

行田市の取り組み (図柄)



2008年、約600坪の古代バスの図柄から始まった田んぼアートは2011年からは約8500坪の規模となり、行田市の歴史を描くそのキャンパスの広さは「世界一」といわれています。

田んぼアートの制作は、ボランティア、地権者、耕作者、地元団体、企業、農協、農業共済、農林公社、埼玉県、市の外郭団体など、この7年間で、延べ約5000人に広がってきており、大きな輪になってきています。

それでは、田んぼアートが完成するまでのようすを、工程を追って、具体的に紹介していきます。

耕耘 5月19日 代掻き 6月1日



まず、田植えの準備として、耨まきと圃場の整備を行います。

5月19日に、肥料散布と整地を兼ねて、田圃を耕しました。そして、6月1日に代掻きを行いました。代掻きは、土を柔らかくして、苗を植えやすくするために行います。同時に、除草剤を散布しました。

播種

6月9日 市内源和農事			
【白】	101箱	ゆきあそ	
【オレンジ】	100箱	スカネアソビ	
【茶】	30箱	ベにあてび	
5月19日 播田センター			
【種】	250箱	彩の輝き	
【薄緑色】	240箱	しろのかがやき	
【黒】	120箱	新905	
【ピンク】	79箱	海潮稲	
【黄色】	100箱	黒大黒	

次に、種蒔きですが、図柄にあった8種類の種籾を蒔きました。

種類と苗箱数は画面のとおりです。行田には、茶色やオレンジ色、ピンク色などの苗がないので全国から取り寄せた籾を使用しました。色は、栽培されている地域ではきれいに出来ますが、気候風土、水の温度などの環境が違うので、こちらに合わせて生育するのは非常に難しいところです。中には、暑さに弱く、水を嫌うものや苗が細く他の三分の一位の太さしかないものなど、稲ごとに性質が違い、それを把握しながらの作業は、想像以上に大変でした。また、穂の出る時期などの違いもあり、似通う稲をあわせ、種蒔きを2回に分けて行いました。

測量及び杭打ち 6月5日



測量



杭打ち



測量図



杭の位置をひもで結ぶ



次に、田植え直前の準備として、6月5日に図柄に合わせて、杭打ちを行いました。杭は3から4000本打ちました。杭の位置がずれると絵が歪んでしまうので、慎重な作業が要求されます。

杭の位置が決まると、画面右下のように、テープで結び、苗を植える位置を決めます。

あとは、14・15日の田植えをばかりになりました。

気象と対策



6月6・8日の大雨により、田んぼが全面的に冠水し排水作業に追われた。

田んぼ全体に水が溜って、田んぼ全体が浸水し、水はけが悪くポンプを使用して、水抜き作業を行い田植えの準備に備えた。

排水路の中の草刈りを行い、流れをよくして田んぼの水位を下げました



稲作りは、自然との戦いでもあります。

杭打ちが済んだ6日から、台風の大雨で田圃が冠水！田圃アートの場所は特に低く、周りから水の集まる土地で、画面のような状態が続きました。

14・15日の田植えが出来ない事態となり、急きょ、排水溝の清掃をして、1週間遅れでやっと、田植えになりました。

田植え 6月21日



ボランティア・協議会
会員農家4名総勢309名
で田植え作業



6月21日、梅雨の晴れ間をぬって、田植え体験の募集で参加できなかった一般参加者の思いも込めて、ボランティア、協議会会員、農家4名の総勢309名《ボランティア44名、高校生57名、その他208名》で行われました。

田植え作業の様子

いよいよ田植え開始。皆さん楽しく、一休みしながら田植えを頑張りました。



高校生も頑張っています。



ボランティアの皆さんも田植えを楽しんでいます。



皆さん真剣です。



いよいよ田植え開始。皆さん楽しく、たまには一休みしながら、梅雨の晴れ間のひとときを頑張っていました。

稲の病気

稲につく病害虫はいろんな種類があります。何種類の病気・害虫がいるか想像もつきませんが、最低でも30種類以上はあるようです。代表的な病害虫を調べてみました。



イモチ病
稲の害虫でもっとも怖い病気です。葉・茎・穂のどの部分にも発生する。



モンガレ病
稲の茎・葉に発生。カビの一種。



イナコウジ病
こらじにつくカビが原因。



田植えが終わると今度は病気や害虫の心配をしなければなりません。

稲につく病気と害虫はいろいろな種類があります。何種類の病気や害虫がいるか想像もつきませんが、最低でも30種類以上あるようです。

代表的な病害虫を調べてみました。

イモチ病：：稲の病気の中で最も怖い病気です。葉・茎・穂のどの部分にも発生するカビの一種です。

モンガレ病：：稲の茎・葉に発生するカビの一種。

イナコウジ病：：穂につくカビが原因です。私たちが醤油やみそなどの、発酵食品を作る際に使う麹菌とは別の種類です。

稲の害虫



イネゾウムシ
稲の葉をかじる。幼虫は根をかじる。



カメムシ
稲の汁を吸って米粒に黒い斑点ができる。



ウンカ類
幼虫が茎の中を害す。



イネアオムシ
ガの仲間。幼虫が稲の葉を食べる。



稲の害虫

イネミズゾウムシ：：稲の葉をかじります。幼虫は根をかじる。

ウンカ類：：幼虫が茎の中を害す。

イネアオムシ：：ガの仲間。幼虫が稲の葉を食べます。

カメムシ類：：稲の汁を吸って米粒に黒い斑点ができる。

稲の被害

どれくらいの被害があるの？

・イネの場合は全国一律で統計とりやすい

これによると...

被害量85万t (被害面積 421万ha)

1位 気象被害 (日照不足、風水害など) 6.8%

2位 病害 (いもち病、紋枯病など) 2.1%

3位 虫害 78400トン (72万ha) 被害量の9%

ウンカ 3%

ニカメイチュウ 1%

カメムシ類 1%



田んぼアートの稲を病気や害虫を守るための防除作業を無人機による空中散布も行う。



以上のような病虫害予防のため、8月の気温が上昇しない早朝に無人ヘリによる空中散布が行われました。

早朝に散布するのは、気温が上昇し、上昇気流が発生する前に作業を終えるようにするためです。

完成図 8月初旬



幾多の障害を乗り越えて、絵が完成しました。

田んぼアートは、古代蓮の里にある、地上50mの古代蓮会館展望室から眺められ、多くの市民や観光客に喜ばれています。

稲刈り

稲刈りを始める前に忍城おもてなし甲冑隊の演舞が行なわれた。



皆さんで稲刈り頑張ります



田植え体験作業で参加できなかった、一般参加者の皆さん・ボランティア・農家の皆さんで稲刈りを行いました。

始まる前に、忍城おもてなし甲冑隊の演舞とトークで会場を盛り上げてくれました。

稲刈り作業の様子

稲の刈り方の説明をよく聞いて！



皆さん一生懸命に頑張っています



稲の刈り方の説明を聞いて、皆さん、少しぬかるんだ状態での稲刈りを泥んこになりながら頑張っていました。

皆さん、元気いっぱい田圃アートの稲刈り体験を楽しんでいるようでした。

稲刈りが無事に終わって

少しばかりのおもてなしで、お弁当・呉汁・ジュースが振る舞われた



稲刈り最終作業は

協議会委員の皆さんで刈り残しの最終作業を行い稲刈りが無事に終了し、田んぼアートが出来ました



稲刈りが無事終わって、稲刈りで頑張った皆さんにおこわのお弁当、呉汁、ジュースが振る舞われました。

皆さんが帰った後、協議会委員の皆さんで刈り残しの最終作業を行いました。

農政課の皆様の談話

“今年の彩のかがやきは、収穫量も品質も最高の出来”になったそうです。

田圃アートその後(藁アート)



原料と作業台



編み込み作業



車にした藁の編み込み途中



とばの完成品



2014年度は「行田市制65周年記念事業」として、武蔵野美術大学の全面的な協力のもと、「藁アート」が取り組まれました。

刈り取った田んぼアートのわらを使い、馬形埴輪とマンモスの体毛になる「とば」を作りました。

「とば」は、わらの束を長さ4mの帯状に編み込み、約190本作りました。

市民ボランティアも含めた約15名で、5日間かけての作業でした。

田圃アートその後(藁アート)



角材と竹で作った作品の骨組みに、とばを張り付けていき、高さ5~7mの巨大なわらアートの完成です。寒風吹きすさぶ中で、約25人、5日間の作業でした。

作品は、昨年12月21日の「わらアートまつり」の開会でお披露目され、2月末まで公開されます。夜はライトアップもされて、古の雰囲気も漂い、とても幻想的でした。

以上をもちまして私たちの発表を終わります。ご清聴、ありがとうございました。取材に協力してくださいました方々に感謝申し上げます。

製作 行田市民大学歴史文化C班

矢島 輝治 田崎 三枝
長谷川京司 牧田 きみよ
仲松 峯二 服部 勝美
谷口 武 信沢 文子
服部 徹也

取材協力 太田 彰

行田市役所
農政課
広報課

完